

## パネルディスカッション2

# 転倒転落に関するCurrent Best Approach

### 【パネルディスカッションの流れ】

1. 活動概要
2. Current Best Approach紹介
3. パネルディスカッション
4. 全体総括

### 企画・座長

(パラマウントベッド株式会社) 杉山良子  
(オーセンティックス株式会社) 高田徹

# 第20回医療の質・安全学会学術集会 COI 開示

発表者名： 杉山 良子

パラマウントベッド株式会社  
プロジェクトのコーディネーションとファシリテーション

## 2. Current Best Approach紹介

### 1. 物的対策におけるCBA

公立藤田総合病院 東泰弘

### 2. 身体拘束と転倒転落予防策

公立西知多総合病院 赤城香

### 3. 転倒転落対策における多職種連携・人材育成

虎の門病院 篠田奈緒子

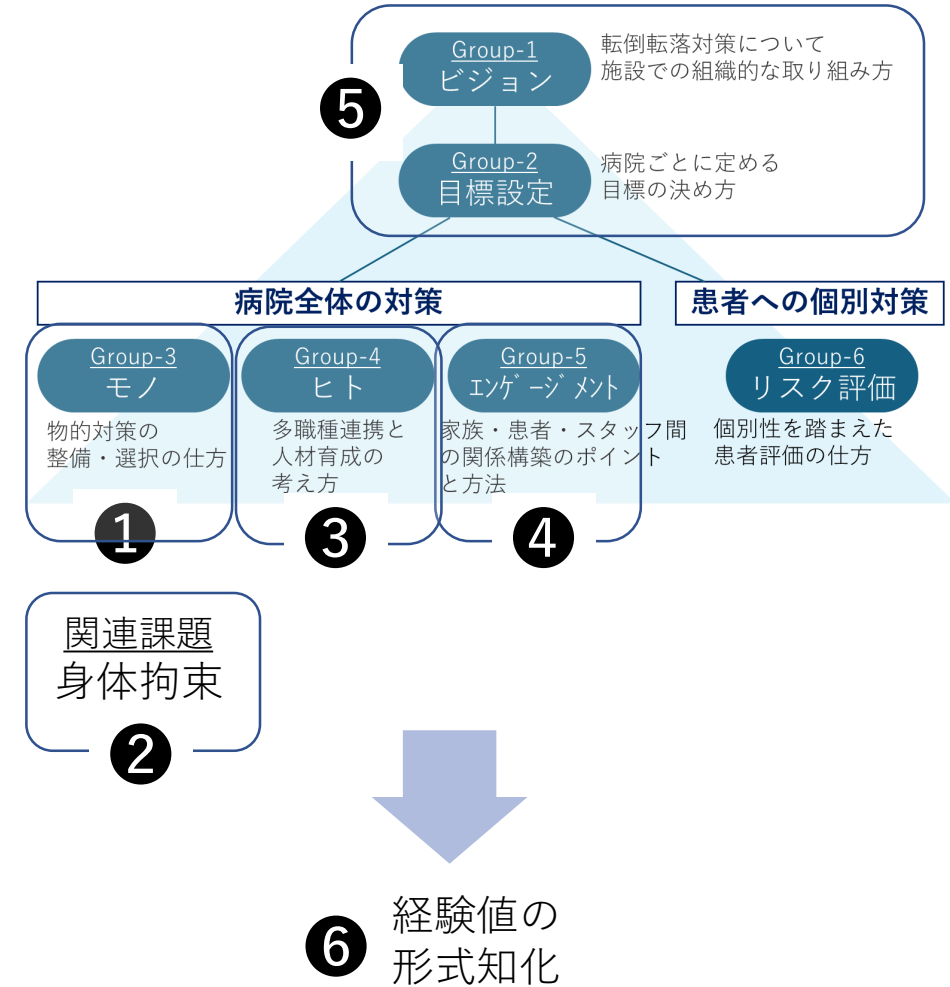
### 4. 患者エンゲージメント

自治医科大学附属さいたま医療センター 大庭明子

### 5. 転倒転落対策に組織一丸で取り組むための ビジョンと目標設定

浜松市リハビリテーション病院 奥田希世子

### 6. CBA(ノウハウの「ナレッジ化」)と、実践方法の提言に向けて パラマウントヘルスケア総合研究所 奥俊介



# 1. 転倒転落Current Best Approach 活動概要

- 転倒転落防止の取り組みは、個別の現場主導の試行錯誤で成果を上げている組織がある。
- 一方、全体としては慢性的な問題となり、解決がすすまない。



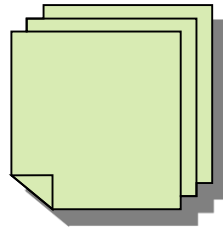
- 現場スタッフからの生の声を集める専門家集団のプロジェクトとして発足（2023年3月）
- 個々の病院・担当者が試行錯誤から見つけた、見つけつつある最善の考え方とやり方を形式知化。



「現時点での最善」を広げ、磨き、最終的には「確立」をめざす。

# 現場の「最善の運用」を「書き出す」

形式知  
Explicit  
Knowledge

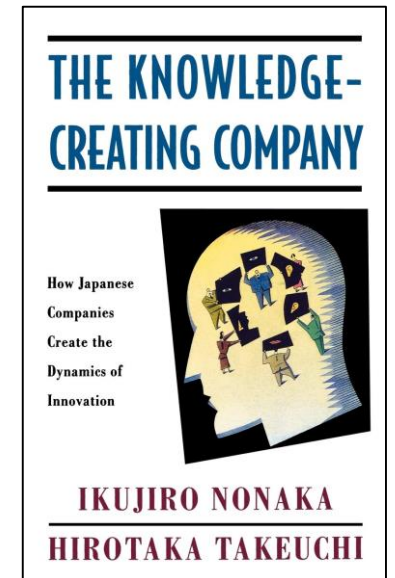


ナレッジとして  
他者が活用できる状態

\* 重要な考え方  
\* 効果的な手順

暗黙知  
Tacit  
Knowledge

現場の試行錯誤の  
学びからうみだされた  
「最善の運用」



1 9 9 5

# Current Best Approach (CBA)

「現時点で最善」の取り組み方

**現場の試行錯誤で生み出された最善の考え方ややり方を書き出す**

「現時点での最善」をリアルタイムで他者が活かせるようにする

「現時点」を運用からさらに磨き、ノウハウとして確立する。



# 進め方のイメージ

23～24年

Phase I

現時点での  
ノウハウの抽出

25～26年

Phase II

ノウハウの進化  
と構築

26年以降

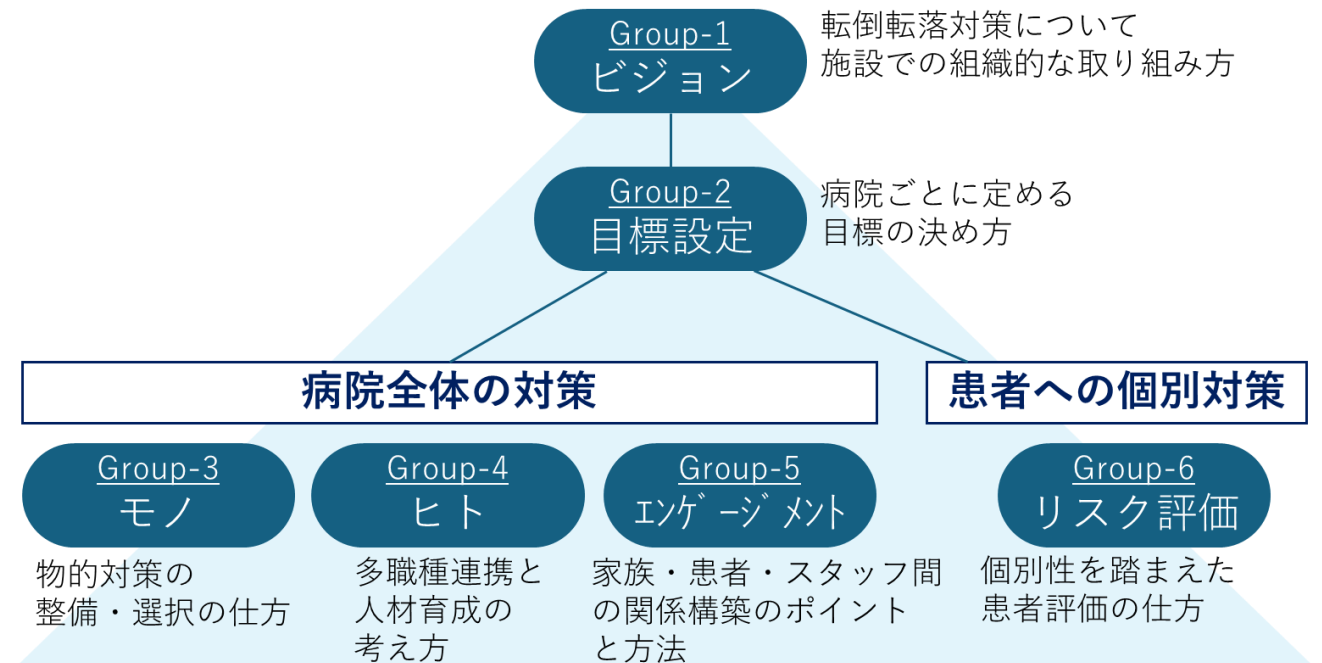
Phase III

エビデンス化と  
標準化

\*ポイントとなる考え方  
\*効果的なアクション



過去成果は以下で発信済  
第19回医療の質安全学会  
Nursing（学研）  
医療安全レポート（医療安全全国共同行動）



## 2. Current Best Approach紹介

### 1. 物的対策におけるCBA

公立藤田総合病院 東泰弘

### 2. 身体拘束と転倒転落予防策

公立西知多総合病院 赤城香

### 3. 転倒転落対策における多職種連携・人材育成

虎の門病院 篠田奈緒子

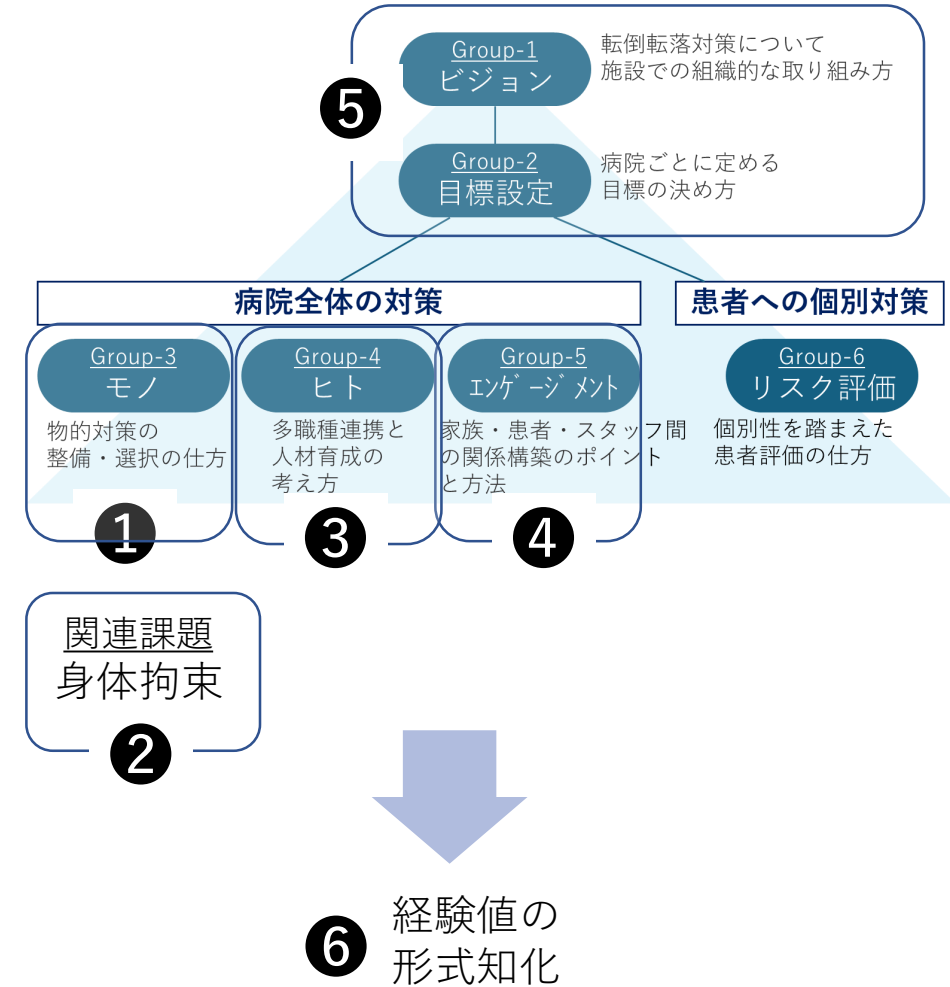
### 4. 患者エンゲージメント

自治医科大学附属さいたま医療センター 大庭明子

### 5. 転倒転落対策に組織一丸で取り組むための ビジョンと目標設定

浜松市リハビリテーション病院 奥田希世子

### 6. CBA(ノウハウの「ナレッジ化」)と、実践方法の提言に向けて パラマウントヘルスケア総合研究所 奥俊介





1. 転倒転落問題解決に向けて、貴院（貴施設）が現時点で最重要視している項目（＝取り組まなければならないと考えている項目）は、RoomT2が目指す「5つの目標」のうちどれですか？ ※RoomT2が目指す「5つの目標」； <https://roomt2.com/teian01.html>

● 1. 転倒転落による傷害をゼロにする、あるいは、転倒転落の事案を無くす・減少させる	71
● 2. 患者の尊厳を守る	14
● 3. ADLを維持し、自立を支援する	28
● 4. 患者・家族が納得し、安心できる	11
● 5. 組織としての効率性を高める	4

